

# 「学びの革新」指導展開例

## ＜基本情報＞

- ◇教育課程 保健体育
- ◇学年 中学部 第1学年(5名)
- ◇単元名 「器械運動Ⅰ」
- ◇単元の目標
  - ルールを守り、能力に応じて課題に取り組み、前転(マット運動)や歩行(平均台運動)などの基本的技能を身に付けることができ、技ができる楽しさや喜びを味わうことができる。
  - よい演技を讃え、仲間と協力して安全に活動できる。
- ◇本時の目標
  - ・ 自信を持って、みんなの前で演技を発表することができる。
  - ・ 指導者や友だちと協力して、準備や片付けを行うことができる。
- ◇生徒の実態 知的障害のある生徒2名、自閉的傾向を併せ有する生徒3名。指導者の指示がないと集団活動は難しいが、少しずつ生徒同士で行えるようになってきている。運動面では、積極的に行おうとしている生徒が多いが、自分の身体を上手く使えず自信を持ってない生徒も多い。

## ＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点 (□課題 ○支援 ☆評価)	
	B	全体
1 挨拶		・ 授業が始められる姿勢が整ってから号令をかけ
6 演技する流れの確認・練習を行う	【マット運動】一人でを行うことができる回り方(前転あるいはゆりかご)を選択して行うことができる。	・ 演技する流れを教員が見本を示し、見通しを持って練習できるようにする。
7 発表会をする	【平均台】少ない支援で上がることができる。	・ 支援してほしい時には、教員にお願いするように伝える。
	○怖ければ、支援を教員にお願いするように促す。	

生徒Bは自閉的傾向が強く、自ら動くよりも指導者からの指示を待って行動することが多い生徒です。本時はマット運動、跳び箱、平均台の連続技の練習、その後発表会という学習活動でした。これまでの練習でも生徒Bは平均台に上がる恐怖心があり、2、3回の挑戦であきらめ、指導者の顔を伺いながら指導者に補助を求めていました。しかし、発表会では足の位置や手の置き方をいろいろ変えてみたり、勢いをつけて蹴り足を上げようとしてみたりして、最後には一人で平均台に上がることができました。その間は、全く指導者の方を見ず、援助依頼もありませんでした。そこから立ち上がりも自分で行おうとしていましたが、さすがに難しかったのか、そこは指導者に援助依頼をして立ち上がり、表情よく歩行しました。

自閉的傾向が強く運動を苦手としている生徒Bは、苦手な平均台の練習時には指導者の表情を伺いながら数回の挑戦であきらめ、「手伝ってください」と援助を依頼する姿がパターン化していたが、最後の発表の場では、友だちの大きな応援の中、指導者の方を向くことなく試行錯誤する様子が見られ、その結果初めて一人で平均台に上がる事ができた。